

広報班 サークル訪問記

～大正大学手話サークル

Pockey～

2015年12月22日(火)午後1時、大正大学手話サークルPockeyの活動の見学訪問に行ってきました。

JR埼京線板橋駅から徒歩約15分。正門からは、風邪をひいて辛そうにしながらもその日の企画進行を担当する2年生の学生さんに案内していただきました。

その日の参加者はたまたま健聴の学生さんのみが10名程。部室はなく、他の学生さんたちと共用の多目的スペースの一角での学習会でした。

集まりはほぼ毎日、授業裏の1コマに合わせて2年生が日替わりで担当し企画しているそうです。

集まっていた中では福祉系学科の1年生が多く、馴れた仲間同士和気あいあいと学習しながらも、企画担当の2年生が柔軟に進行していました。五十音順の単語学習と年末年始のテーマでの表現練習、急遽盛り込んだのであろう自己紹介の表現練習に私も参加させていただき、都サ連として自己紹介させていただきました。

駒澤「かえで」の交流会の場で連絡が取れるようになった後、あらためて訪問で顔を合わせることができ、お互いに行事や交流の機会等の情報交換をしていけるよう確認ができました。

気さくながらも勉強熱心な、大正大学手話サークルPockeyでした。

(文責 広報班 大木)

都サ連一日研修会報告

2016年1月17日(日)日本大学文理学部をお借りして実施しました。午前の部 講師：久松三二氏「ろう運動の必要性と手話サークルへの期待」、午後の部 講師：早瀬久美氏「わたしの生き立ち」。参加者は209名(加盟サークル190名・一般参加11名・招待者8名)でした。皆さまから寄せて頂いたアンケートは150枚、回収率72%といつもながら沢山の方に回答して頂きました。

◇参加回数…初めて50名 2回目34名 3回目20名 4回以上43名 無印3名

◇回答者…聴者147名 ろう者3名(全て初めての方)

◇久松氏の講演について

良かった・大変良かった147名 普通3名(理由の記載なし)
(多かった意見)

- ・とても分かり易いお話しだった。
- ・サークルの歴史の振り返りになった。
- ・サークルの役割を改めて考えさせられた。

◇早瀬氏の講演について

良かった・大変良かった146名 普通4名

- ・魅力的な方。元気をもらった。
- ・お話が盛りだくさんだった。
- ・薬剤師としてのお話が参考になった。
- ・東日本大震災への支援も含め、多才で活動的な方。
- ・スライドがめまぐるしかった。資料が欲しかった。

◇その他

- ・会場について…綺麗で良い。交通が便利。寒かった。駅から遠い。
- ・情報保障について…通訳が素晴らしかった。情報保障がしっかりしていた。(多数意見) 読み間違いが気になった。スクリーンが見にくかった。(少数意見)
- ・気になったこと…昼休みが長すぎる。サークル紹介は不要。その時間も講演を。(少数意見)
- ・良かったこと… 毎年の講師のチョイスがよい。午前・午後の組み合わせがよい。司会が良かった。参加サークルの紹介が良かった。充実した内容だった。

◇今後の希望

- ・手話ニュースで活躍している方のお話
- ・ワークショップ
- ・色々な分野で活躍しているろう者のお話
- ・手話通訳士の方。失敗談・現場の話など
- ・かたつむりの施設長。施設・ろう者の介護福祉士・雇用の問題
- ・障害者差別解消法・手話言語法・言語条例などについて
- ・一日研修会を増やしてほしい。(複数意見)
- ・アンケートを書く時間が少ないので、後日FAXする方法も考えてほしい。
- ・紹介した本の表題を教えてほしい。会場で販売をしてほしい。
- ・準備が大変なので、ブロック担当はなくして年1回でよい。(少数意見)
- ・講演会だけでなく交流(サークル同士 あるいは講師と参加者)の企画も良いのでは。

また参加したいという声とスタッフへのねぎらいの言葉も多数頂きました。

(文責：事務局長 河野)

都サ連一日研修会感想

●前半の久松氏による手話サークルに関する話は、事前により予測できなかった分、とても興味深く聞くことができた。率直に言えば、手話サークルは主に聞こえる人が手話を学ぶ場所であり、ろう者が積極的に参加したがる場所ではないと思っていた。しかし、手話サークルが、ろう者と聴者が出会い、交流する場所であったこと、聴者からろう者だけでなく、ろう者から聴者へのコミュニケーションの練習の場となっていたこと、そしてそれが今までのろうあ運動への強い原動力へととなっていたこと、を伺い、その社会的役割の大きさに驚かされた。司会の方は、「手話サークルの意義について改めて考えるきっかけになった」と言う趣旨の言葉をおっしゃっていたが、私も(地域のそれとはちょっと違うであろう)「大学の」手話サークルの意義について考えさせられた。

後半の早瀬さんに関して。プロフィールなどは知っていたが、比較的最近の活動についてお話下さり、とてもパワフルな方だという印象を受けた。ご自身が「ろう者」であり「薬剤師」であるという属性を存分に生かして、お仕事・活動なさっているのだと、多くのエピソードの紹介の中で感じた。自分も来年の就職活動で手話について話さざるを得ないと思う。その際、ただ、「手話を学んだ」という事実を伝えるだけでなく、「手話学習者」や「ろう者について少し勉強した人」という立場から、何か語れるといいなと思う。

東京大学手話サークル しゅわっち 佐藤秀行

●先日の研修会ではお世話になりました。

久松様の講演はサークルを動かす立場としてとても勉強になりました。今後のサークル活動に活かしていきたいと思います。早瀬様の講演は新しい知識等を楽しく学ぶ事ができました。ロードバイクの活動頑張っていたかと思いました。お二方の講演ともとても勉強になりましたが、固い講演ではなく楽しい講演だったのでとても楽しく学ぶ事ができました。

貴重な体験をありがとうございました。

東京成徳大学 手話サークル 所遼太郎

●私はろう者の方の講演会に参加するのは今回が初めてでした。ろう者の方から直接聞いたお話は知らないことが沢山あり、新鮮でした。その一方で、通訳の方なしではほとんど理解できなかったことに自分の勉強不足を感じたりもしました。

久松さんのおっしゃった、手話は英会話のようになかなか上達しないものだし、それを取り巻く文化や、ろう者の方の生き方を正しく理解することも大事だ、という話が自分の中ではしっくりきて、これから心掛けていきたいなと思いました。早瀬さんはろう者で初めて薬剤師になられた方で、今薬学部で勉強している私たちにとって特に興味深いお話をしてくださいました。また薬剤師以外にも幅広い分野で活躍していらっしゃることに驚きました。ろう者だからと諦めるのではなく、その立場に立つからこそできる仕事を一生懸命していらっしゃる姿がかっこいいと思いました。

1日かかりの講演会でしたが、貴重なお話を聞くことが出来て、よかったです。このような機会をいただいて本当にありがとうございました。

北里大学白金手話部

●東京都手話サークル連絡協議会様

先日は一日研修会に参加させて頂き、ありがとうございました。

普段はサークル活動として手話を勉強することや、交流会に参加し、ろう者の方とお話する機会はあるのですが、ろう者の方の生い立ちについてや、実際にろう者の方がどのような考えを持って過ごしているのか聞く事はなかなか出来ないのが貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

駒澤大学手話サークル「かえで」

